Naturalistae 21: 117-121 (Feb. 2017) © 2017 by Okayama University of Science, PDF downloadable at http://www1.ous.ac.jp/garden/

講習会開催報告

WFA（Wilderness First Aid）ベーシックレベルの実施について 2016年10月15日～16日

正木智美[1]・太田 謙[1]・松尾太郎[1]・西村直樹[1]

はじめに

岡山理科大学生物地球学部は，金曜日の講義がなく，週末を利用して野外活動ができるよう配慮されている．また，同学教育学部では，授業だけでなく野外活動もできる教員を創出するため，特別な集中講義を設けている．ただ，野外活動する際には，自分だけでなく同行者や引率する学生への危険回避の配慮，さらに事故への対処が必要となる．そこで，自然フィールドワークセンターでは，2016年10月15日（土）～16日（日），岡山理科大学構内でWFA（Wilderness First Aid） ベーシックレベル２日間を開催した．参加者は，教職員，学生あわせて８名．参加者は，野外で起こった事故に対し，救助に至るまでの命をつなぐ知識と技術を学ぶことができた．本稿では，WFA開催に至った経緯や講習内容を紹介する．

学生からの要望

今回の開催は，岡山理科大学で開講している講義「エコツーリズム技法」を修了した学生の要望からはじまった．この講義は，屋久島で約１週間かけて開催されており，現地のプロガイド，YNAC（有限会社 屋久島野外活動総合センター）のガイドが講師である．学生は，プロガイドから直接指導を受け，屋久島の自然の中で講義を受けている．この講義を受講した学生は，通常の生活では得られない刺激を受けたらしく，最近，将来ガイドを希望する声が徐々に増えてきた．彼らは，講義修了後もガイドを目指し，自ら他の講習会を受講していた．その過程で，危機管理，安全に対する心構えに不安を感じるようになったようである．さらに，講師であるYNAC小原 比呂志（おばら ひろし）氏が，すでに今回開催したベーシックレベルより上位のWAFA（Wilderness Advanced First Aid）アドバンスレベル４日間を取得後，そのワンランク上のWilderness First Responder（WFR）（＊WAFA資格保持者が対象）プロフェッショナルレベル４日間の資格を取得されていた．学生らは，プロガイドである小原氏からガイドとしての心構えから安全管理についての話を直接伺い，その必要性を感じたと思われる．

大学構内での開催について

定期開催されているWFAの情報を見ると，開催地は，主に野外のビジターセンターや青少年自然の家など実際の状況に即した山間地である．そのため，当初は，大学構内での開催が難しいのではと懸念した．しかし，講師による開催前日の会場チェックによると，適度な斜面や障害があり，さらに講義室が近く，プロジェクターやトイレなどが利用しやすいなどの点から大学構内での開催は充分可能ということとなった（図１）．大学構内での開催であれば，学生や教職員は旅費や宿泊費の負担がなくなるため，受講しやすい．さらに，大学構内での開催であると，当日の天候に左右されることがない．

１．〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学自然フィールドワークセンター Nature Fieldwork Center, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

図１．構内での開催の様子．

WFA（Wilderness First Aid）ベーシックレベル（20時間）の位置づけ

WFAは，野外や災害時など通常の救助が望めない状況下で命をつなぐための技術を学べる国際資格認定コースの１つである．この資格は，北米に本拠地を置く団体Wilderness Medical Associates International（WMAI）ウィルダネス メディカル アソシエイツ インターナショナルを本部として発行される．日本では，一般社団法人ウィルダネス　メディカル　アソシエイツ　ジャパン（Wilderness Medical Associates Japan（WMAJ））が日本支局となり，資格認定をおこなっている．WMAIによる野外・災害救急法は，1981年，北米で，救命医師を中心とする野外救助活動の専門家により開発された．日本では2007年から開催され，現在のべ1,000人以上の修了生がいる．

国際資格認定コースの種類は，以下の５種類がある．

１．WFA（Wilderness First Aid）20時間（＊受講資格なし：今回開催のコース）ベーシックレベル２日間

２．WAFA（Wilderness Advanced First Aid）40時間（＊受講資格なし）アドバンスレベル４日間

３．WFR（Wilderness First Responder）40時間（＊WAFA資格保持者が対象）プロフェッショナルレベル４日間

４．WEMT（Wilderness Emergency Medical Technician）５日間（＊救命救急士の国家資格保持者が対象）WEMT救命士レベル５日間

５．WALS（Wilderness Advanced Life Support）５日間（＊医師が対象）WALS医師レベル５日間

３番以降の資格（WFR，WENT，WEMT）は，２番目のWAFA（Wilderness Advanced First Aid）40時間アドバンスレベル４日間の資格取得者，または救命救急士や医師の資格を持つ者が対象である．

このため受講者は，プロからアマチュアまで幅広い．たとえば，救命救急医・看護婦・救急救命士・山岳ガイド・ラフティングガイド・野外教育指導者・野外施設職員・山小屋スタッフ・山岳愛好家・トレイルランナー・災害ボランティア・主婦などがいる．事実，北米では，アメリカ山岳ガイド協会（AMGA），カナダ山岳ガイド連盟（ACMG）がガイドをおこなう上で必須の資格としている．日本では，長野県知事認定「信州登山案内人資格」，北海道知事認定「アウトドア資格」，東京都「自然保護指導員」，国土交通省・環境省（主任），「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」，北海道教育大学「アウトドアライフ専攻」などが必修救急法の一つとして指定している．

ただし，いずれの資格も取得後３年以内に再受講の上，再度テストに合格することで資格継続が可能となる．これらの資格に関する情報は，WMAJウェブサイト（http://www.wildmed.jp/index.html）で確認することができる．

講師の紹介

今回，WMAJ（Wilderness Medical Associates International Japan）代表理事の横堀　勇（よこぼり　いさむ）氏が講師として東京からお越しくださった（図２）．横堀講師は，WMAJのリードインストラクターであり，ご自身は北米本部WMA（Wilderness Medical Associates）野外災害救急員（WEMT救急救命士レベル）の国際資格を取得されている．つまり，３年ごとに渡米し，資格継続の講座とテストを受けられている．横堀講師は，カナダの大学を卒業後，より高度な山岳技術を得るため，さらに専門的な学校で学ばれた．日本に帰国されてからは，静岡の自然学校，富士登山や樹海洞窟のガイド業，国際的な環境教育事業にたずさわり，再度カナダへ．カナダで

図２．横堀 勇講師．

山岳ガイドを経て，日本でWMAJ代表理事ならびにリードインストラクターとなられた．その間に，「ウィルダネス医療と救助医療(Wilderness and rescue medicine)」を翻訳され，野外での救助医療に関する知識を広めつつ，これまでの経歴を活かしてガイドとしても活動されている．

WFA（Wilderness First Aid）ベーシックレベル(20時間)の内容

WFA(Wilderness First Aid)ベーシックレベル(20時間)の実習内容は，座学，実技，テストで構成される．テストは，筆記と実技があり，80%以上で合格となる．取得後の資格期限は，３年間であり，資格更新は実習の再受講とテスト合格が必要である．

座学は，人体の構造や傷病を知り，環境が人体に与える影響を理解する．実技は，知識を習得するたびに，学びに沿ったシナリオトレーニングがおこなわれ，段階ごとの実技を覚える．実際の状況下では，考えるよりも身体が動くのが必要であるため，このシナリオトレーニングによる実技の繰り返し練習が重要となる．

今回の講習において，横堀講師は，最初に２日間に習得すべき知識の多さを指摘されていた．事実，修了してみれば２日間では覚えきれないほどの知識量であることは受講者共通の思いであり，再度の復習の必要性があると思われた．実際の横堀講師の講義は，とても短い．知識とトレーニングの割合は，１対９程度である．シナリオトレーニングは，身につけるべき知識の理解をより深めるものであった．

知識は，「ウィルダネス(Wilderness)」の定義と概念の理解からはじまる．他人に対して救助をおこなうため，それ以前にまず自分の身を守る感染予防の考え方，人体や病気の原則を学んだ．また日本国内法により，本拠地である北米での考え方を使えない場合もあることも学んだ．

次は，けが人に対する「傷病者を評価する独自のシステム」を学んだ．この評価システムは，救助者が「循環器系・呼吸器系・神経系」に関わる重要な項目の深刻度を60秒以内に判断することが求められる．対処法は，その深刻度により決められる．たとえば，呼吸が止まっている場合，気道を確保して人工呼吸をする(図３，４，５)．呼吸と心臓が止まっている場合，心臓マッサージをしながらの人工呼吸をする．心臓マッサージをしても状況が変わらない場合，AED(自動体外式除細動器)が必要となるので周りの人に呼びかけて持ってきてもらう(図６)．呼びかけに反応する場合は，人工呼吸は不要であるが，外傷による出血など他の傷病を疑う．それと同時に，時間とともに変化する意識状態，脈拍，呼吸などを適時記録し，次の救助者へ伝える．

基本的な考え方にもとづいた救助の次は，ケガやアレルギー，悪天候など環境要因による障害，皮膚へのキズや熱傷，深い刺し傷に対する具体的な処置「一時救命処置」を学んだ(図７，８，９)．この処置は，都市部から数時間離れた場所で助けを待つ時間(数時間〜数日)に何をすべきかについて示したものであり，これも具体的な手順を踏んで実技をおこなった．ただし，医学的な処置の線引きは明確にあり，処置以前に医師の指導と処置の許可を受け，傷病者にも処置の許可を得ることが求められる．横堀講師によると，医師に対する資格取得コースは設けられているが，野外での医療に関する必要性や知識が浸透しておらず，このような処置の許可を出せる人数は限られているとのことであった．そのため，今回の受講者がすぐに学んだ医療処置をすることは，現段階で事実上不可能である．ただし，処置を

図３．傷病者の評価（１）．

図４．傷病者の評価（２）．

図５．傷病者の評価（３）．

図６．AEDの使い方．

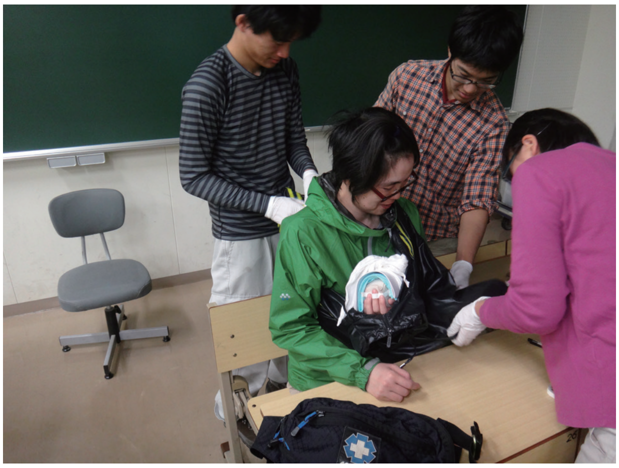
図７．骨折をした場合の処置．

図８．外傷への処置．

しない場合，どのような身体の変化があるかを習得しているため，その場の状況判断は素早くできると思われる．

講習の最後は，筆記と実技のテストである．筆記は，その場で横堀講師が採点され，実技は，これまでのシナリオトレーニングと同様に傷病者と受験者の両方を担当した．試験結果は，その場で分かる．合格者には，後日，ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパンから非公開のFacebookグループへの招待がある．それに登録すれば，合格者同士の情報

図９．低温障害への対処．

図10．集合写真．

交換が可能となる．最後に，横堀講師にお礼と記念撮影をおこなった（図10）．

まとめ

野外活動をおこなうのであれば，事故の発生を必ず想定しておかなければならない．当然，事前に障害保険をかけておくことも大切である．しかし，事故が実際に起こった場合，救急車や救助が都市部よりも格段に遅れてしまう事態に対し，「命をつなぐ」ための行動がすばやくできる必要がある．WFAの講習は，想定しておくべき事態に対する最低限の知識・実技として有効であると考えられる．今後，自然フィールドワークセンターとしては，定期的にこの講習会を開催するだけでなく，野外・災害救急に関する知識を広める講演会開催も視野に入れていきたい．

謝辞

最後に講習会開催にあたり，横堀講師はじめ一般社団法人ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパンの皆さまに大変お世話になりました．この場を借りてお礼申し上げます．

（2016年11月16日受理）